

SPRING 17



編者 前白

騒乱と平穩の二面を合わせもつ多様化された現代、ともすれば退廢の道に足をすべらせ、無氣力化の一途をたどってしまう。社会が悪いと言うことをよく聞く。が、しかし、我々は環境の奴隷では無いはずだ。

「若さ」という名の剣をとり、無氣力化の波と闘うのが我々でなくていったい誰だと言うのか。このスプリングは、その闘争の引き金となるように編集したつもりである。

闘争が始まった時に、本当の飛躍があり、本当の春が来る。

目 次

※ 巻 頭 言

※ 座 談 会

「自治会の理想像」について

前期会長
同 副会長

片 桐 正 志
神 矢 弘

司 会

~~~~~

後期文化部々長

後期会長  
同 副会長

谷 村 信 宏  
宮 田 英 司  
松 前 利 幸

4 1

※ パロディ「日本永代蔵」

生物部住人

※ 行 事 紹 介

校外教授、自治会祭、北野交歓、水泳訓練  
体育大会、文化祭、コーラス大会、マラソン大会  
クラスマッチ、修学旅行名句選

8 7

※ 学 年 紹 介

一 年  
二 年  
三 年

12

※ 大手前90周年に際して

「大手前——その流行と不易と——」

杉野としゑ先生

18

16 14 12

「現代大手前生に望むこと——」……………綿谷芳夫先生 19  
 「大阪にある大手前」……………三年 玉野健一 20

※ クラブ紹介……………22  
 クラブからのメッセージ……………21

※ 先生紹介……………25  
 教育学 特集……………井手先生、稲川先生、小野先生、香川先生  
 須崎先生、多賀谷先生、中村先生、沼田先生  
 平瀬先生、広田先生

※ 「未完聖書」……………能因天主 31  
 「ピエロ」……………飛鳥紫苑 31

※ 随想……………大倉清校長先生 32  
 「きびしさとむごさ」……………平正人先生 33  
 「第四高等学校」……………小松素彦先生 34  
 「オリエンテリング」……………  
 パーマネントコース雑考」……………

※ 「破滅の時 II」……………一年 山田雅夫 36

※ 編集後記……………38  
 表紙デザイン……………二年 吉田和代  
 カット（先生紹介）……………二年 栗本昭一

# 座談会

## 「自治会の理想像」について

後期会長

片桐 正志

後期副会長

谷村 信宏

後期副会長

神 矢

弘 後期副会長

宮田 英司

司会

後期文化部長

松前 利幸

去る十一月十二日、全校生徒の頭脳ともいえる自治会執行部の人たちが座談会を開いてもらいました。テーマは表題の通りです。それぞれ直接に関係のあることだけに、討論にも熱が入ったようです。

松前

議題は「自治会の理想像について」

神矢

僕はね、割と協力的な人が多いと思

です。まず、今、自治会が本部のものだけのよう言われているでしょう？ その実態というか、みんなどうして無関心なのかということから始めてもらいましょう。前期の人からどうぞ。行事に対する心構えとか、あんなから仕方なくやっている、今までのことから急にやめたら抵抗を感じる、そんな感じがあります。

谷村

今、神矢が協力的な人が多いと言

ったやろ？ その点は僕から見ると

宮田

中心になっている人物が、何々してくれへんかということ、仕事を与えるからやってくれるのであって、自分から進んでやってくれる人は少ないと思う。

それでええのと違う？ クラスの中で2、3人そういう指導者がいたら、

あとは皆、協力していったらいいんだけど……

その協力もちゃんとあったらええけど……

神矢

僕が言いたいののは、みんなが心か

らやろうというのは絶対に無理と思う。どんな場合でも、みんな一斉に「こんなやろうや」と、あっちからもこっちからも意見が出たら、それに越したことはないけど、それは難しい。ただ僕のクラスの場合はね、割とみんな、協力的でした。自治会祭の時も文化祭の時も……

谷村

クラスによってちゃうやろけど……

みんな自身自身の意見持っているはずやねん。ところが、それを実行に移すとなったら、そこに問題がでてくる。ひとりひとりがそう思っても、全

片桐

体でいざやるとなった場合に、なかなか意見の調整がつかない。

神矢

「ただ、難しいことは百も承知で取りくまない。全校生徒は千人ぐらいおるわけでしょう？ それを動かそうと思ったら、なみだいてい事ではできないと思う。だから、いろいろ考えないといけないし、みんなの方も考えないと。去年もやったから今年もするというのがあったら、詳しく考える必要はないわけだからそれでいけるけれども、何か改革して新しいことを試みるのだったらよく考えてやらないと……。」

谷村

「やっぱり神矢が言うた通りにあるからやるんや」という感じやな。だから内容もマンネリ化してきてるけど、今度僕らが「こう改革しよう。」とみんなに呼びかけることによって、それぞれ行事に対する意気込みもちょっと変わってくるんじゃないかなあ、と期待してんねんけど。」

神矢

「それは変わるとは思いますけどね、既に不満というか、今まで通りだったらいやだという意見も大分出てきてるよ。」

うだし、それに以前に言われていた程無関心じゃないと思います。だから、そこはとにかく執行部の方が、その関心をもって人たちをひっぱっていくか、一番重要なことじゃないかと思えます。」

松前

「関心を持っている人を発掘するのに発言の場所を提供したらいい。」

宮田

「うん、だけど発言の場所は既に総会もあるし……。」

神矢

「しかし、総会という形では言いにくいのと違う？ アンケートという形が一番……もちろん、じっくり書いてもらえるようにして……。」

谷村

「アンケートやったら、個人の自分の考えだけになるから、クラスで討論会をもっと活発に動くというのが一番理想的な形だと思うけどね。」

(一同うなづく)

宮田

「みんな意見持ってるけど、言ってくれないから困る。」

神矢

「あらたまったことになると言いくいねえ。」

宮田

「もっと、クラスの役員に自覚してもらって、クラスの討論会を活発にする。」

「ようにしたいなあ。会長、副会長は、クラスの話し合いがうまくいくように努力して……。」

松前

「うーん、委員からクラスへの伝達があまりスムーズにいったないよう思うけど。」

宮田

「ちゃんとSRRの時間に、委員が伝達したらいのに。」

神矢

「みんな時間がないのと違うかな？ 「俺、クラブ行かなあかんねん。」と行ってさあつと行ってしまおうようなあれは何とかならないかな。六時間目終ってからちょっとの間でもクラスで終礼をやってその時に連絡をし、クラスの話し合いもその時にする。中にはクラスのことなんかどうでもいいって人もいるでしょう？ いくらクラブが強くなってもそれではあかんと思う。クラブも大事だけど、自分たちのいる大手前高校を如何によくしていくかという……。」

谷村

「クラブ員である前に、自治会員であってほしいな。」

松前

「さて、これから後期の二人に今後の方針を話してもらい、前期の二人には……。」

神矢

「さて、これから後期の二人に今後の方針を話してもらい、前期の二人には……。」

アドバイスをしてもらえたらと思いま  
す。

谷村

まず、みんないろいろ意見は持って  
いるわけですね。それをあらたまった  
場所では言えない……、だからもっと  
言える機会をこちらから作っていくこ  
とが必要だと思います。僕ら一応目標  
を決めてるけど、その基盤になる考え  
というのが、発言の機会を作るとい  
う事だから。

松前

行事については？

片桐

今、問題意識を持っているのは比較  
的一年が多い。一年は入学して少し  
かたっていないので、行事についても  
あまりわかっていない。自治会に出  
来ていないという事もあるから、二年  
が積極的にリードしないとあかんと  
違うかなあ。二年生と一緒になっ  
てが  
んばってほしいな。

宮田

そうやな、本部に一年は少ないから。  
来年の前回は一年がやるのに今のま  
までは引継いでもらうのが難しいの  
と違  
うかなあ。

片桐

だから後期ががんばってくれないと。  
(一同笑い)

神矢

ほくも一年の時は、そんなに真剣じ  
やなかった。

片桐

じゃあ、片桐の言っているのは、わ  
りと真剣に考えているのは二年だけ  
他はわかっていないってことか？  
わかってないんじゃないか、わか  
らないと思うんだ。だからわかってもら  
えるようにしないとあかんのとちが  
う  
かな？

宮田

一年対策の方は…… 去年の後期は  
一年の副会長がおったけど、今度は一  
年は岡田さんだけではちょっとパイ  
が弱いのと違う？

神矢

今、岡田さんというのがでたけど  
有効に使ういうたら悪いけど(笑)や  
っぱり一年の代表だから、ちゃんと代  
表として、本部ではうまくリードし  
なければならぬと思う。

宮田

一年の問題意識の開発…… 本部に  
来てもらう助手や各部の補助としての  
一年にも常任委員会の話し合いの輪に  
入ってもらう。

松前

やっぱりここで問題になるのは一年  
の自治会への関心と参加ということや  
ね。そのへん何か考えてないかな。

神矢

一年としては、何かせなあかんとは  
思ってるけど、いざやるとなったらど  
うしたらいいのかわからないというこ  
と、それを我々がリードしないと。ど  
うやってリードするか、それから、覚  
えてもらう内容が難しいのと違う？

谷村

一年と本部との話し合いの場を作る  
のもいいね。大体本部は二年ばかり  
やから。

片桐

そういうものだと思っけどな。学年  
代表が中心になってクラスの会長が集  
まって話し合う場があつて……

宮田

学年代表にもっと視率してもらわ  
ないと。

谷村

その意味では今度最高の機会とい  
う感じがするねん。一年、二年、三年  
の学年代表がそろったということもあ  
るし、それからぼくたちがこうして自  
分達の問題を全校生徒に提示した上で  
立候補して通してもらたわけやから。

松前

それじゃあ、この辺で前回の二人に  
後期へのアドバイスとか、提案があつ  
たらしてもらえないかな？

谷村

お願いします(一同笑い)  
全体の意見をまとめるというのは難

しいからね。会長も、代表会議の各委員もどういうふうにみんなを結集していくか、そこがまとめ役としての谷村の役割の重大さやね。

神矢

あの、やっぱり、今からネ計画を十二分に練っておくといい。十分計画しておかないといざ実行に移そうとする時に失敗するんじゃない？ だから前から何回も考えて、それから実行する方がいいと思う。

松前

最後に谷村に自分の意見を述べてもらおう。

谷村

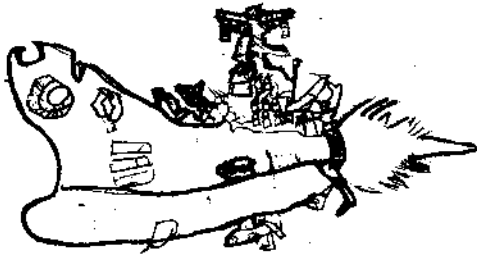
僕は今の行事のあり方が決まっていとは思ってないので、それをよりよい方向に変えていきたい。それでは具体的にどうするかという点、一つ一つの行事を見つめ直して内容を充実させていく。これが一番目の目的。そのために、行事が減る事になってもしかたがないと思うし、又逆にもっと盛大なものにする事も、もちろんしたい。二つ目が現在の自治会費のあり方というもの、すなわち、今自治会の運営が財政面において支障をきたすほどになっ

松前

三つ目がさっき言ったように、クラブ中心でクラスでやる事に協力しない人があるから、そういう事をクラブの間での話し合いで、もっと自治会に協力してもらおうようにしたい。それとものに話し合いによってクラブ間の親睦をはかってそれぞれの充実をはかっていきたい。

この三つね。とても大きな問題と思うねん。だから僕達の責任は、大変大きなもので、それは常任委員は、全員自覚している。僕達の思っている事をみんなに伝えてもらおうと思う。だから協力お願いします。

それではこれで討論会を打ち切りた



パロディ

「日本永代蔵」

二年 生物部住人

和国の学び口とて、「大学を落つまじ」と空誓文を立つれば、親これに気を許し、例によらず買ひ与ふる世のならはしなり。ほこり横む机の上に、俗性歴々の浪人身を隠して、年もすねかじりに似合はぬころになれども、入学の望みもなく、親二人使うて、一代のたくはえありて、世をなりはひに暮らし、無為徒食をほかよりのとがめうたてく、参考書見せかけばかり出しおき、進退問ふ者あれば、遅きものを遅きと、ありのままに言ひければ、これを叱すれども負けず。そもそもより、国立三つ、公立四つ、私大二十一校、短大八、準大学二つ、予備校十五、三年余りに一つもうからず。

これを思ふに、受験上手はあるべきことなり。

## 行事紹介

### 校外教授

先日突然、春の遠足の事を書いてくれと頼まれて、安請合したのがまずかった。春の遠足など半年以上も前の事ゆえ、「記憶にございません。」しかし白紙で原稿を提出するわけにもいかず、どうしたものかと思案している時、偶然の機会から「X氏の回顧録」なるものを入手することに成功した。因って、そのうち春の遠足の一部をここに掲載する。

「五月四日（火） 雨 or 曇 雨の中を遠足強行。行く先は『生まれて初めて行くところの法隆寺』であった。寺へ行く途中。雨でぬかるんだ出んばの畦道を歩かされた。一同、スポンをまくって歩きながら、田舎に住む人の雨の日の苦勞を、身をもって感じていた。肝心の法隆寺では回廊をぐるりと回っただけで残念ながら特に印象に残ったものがなかった。その辺はよく覚えていない。連休ばかりしてい

たのかもかもしれない。それより、この遠足で自分が得たものは、新しいクラスの友人と親しくなった事だと思ふ。四月以来クラスに漂っていた緊張した空気が、少しは和らいだのではなかっただろうか。しかし、クラスが本当にまとまり出すには、もう少し時間を要するであろう。

### 自治会祭

入学して間もなくスプリングを手にし、楽しんで読みました。今度はその私がこの原稿を書くことになろうとは……。

五月初旬の数学平常考査、下旬の中間試験。この頃はまだクラスも打ち解けず、シラととした雰囲気だったのです。そこにこの自治会祭の登場。中間後一週間、武技大会も重なった短い準備期間で、かなりあせった感じでした。でもせっぱつまってこないとなかなかのらないもので当日は午前中授業があるのに、朝から心はもう昼からの自治会祭へ。教室の飾りつけで、授業に来られた先生も心なしかここに、ウキウキ。昼食もそこそこに、劇あり、ヨーヨー釣りあり、喫茶室ありで大はしゃぎ。舞台某コンテストにおける某先生の

女装は見ものであったとか。（筆者はクラスの方の為見に行けず。惜しかったなア。）私事ですが、私のクラスのバザーは大成功だったのであります。お買い上げいただきました先生方、皆様ありがとうございます。

この自治会祭は、入学して初めて少しハメをはずして遊び、クラス全体が打ち解ける、一学期最大の楽しい行事なのです。

### 北野スポーツ交歓

六月十一日、大手前対北野のバレー。ポール大会が行なわれました。前年度までは陸上もあったのですが、今年からバレーだけということになりました。伝統ある行事なのですが生徒は試合の勝敗のみに気を取られるという状態。北野の一年一組と大手前の一年一組というようにクラス対抗。結果は例年のように北野の勝利に終わりました。どうして負けるのでしょうか？いろいろな面で問題のある行事ですが終わってから北野の人と友達になったという話も聞きますから、やはり意義があるでしょう。私としては北野交歓というのと、ただ北野は運動場が広かったなあ、ということしか思い浮かんでこないのですが……



そうそう、それに先生方の対抗試合。体育の先生はもちろん他の教科の先生も一生懸命ボールを追われるあの姿。感激せずにはいられませんでした。これもどういふ訳か北野の先生方の勝利に終わりました。勝ちたいと思う気持ちだけでは勝てないですねえ……。

とにかく、自分は大手前生だと強く感じた一日でした。

## 水泳訓練

水泳訓練、それは思い出すたび身の毛がよだつほど恐ろしく苦しい体験でした。

この水泳訓練とは一年生だけのものですが昔から続いているそうです。A B C D班に分かれて服部緑地公園内のプールで行なわれ、なんと期末考査の終わった次の日から五日間も苦難に堪えなくてはなりません。AはBに転落しまいと、B C Dもより上のクラスをめざして励むのです。たとえばBを例にとると、まず最初の二日間くらいは、そろそろ縦五十メートルを泳ぎます。へたをしてプールの真中で立とうとしても、ちょっと背の低い人なら足がつかみません。本当にその時は死ぬような気持ちになります。

しかしぼくたちが、この訓練を通して苦しさだけを覚えたという、うそになるでしょう。よく泳げる人も全く泳げなかった人も、その人なりに一生懸命やっただけです。目的はもちろん水泳上達であるのですが、一生懸命に最後まであきらめずに物事を行なうということでもあるのです。ぼくたちは、これからも、この苦しさ、そして苦しみの後の喜びを忘れずにいようと思います。

## 体育大会

歓呼……覚えておいでだろうか、諸君は。

一九七一年九月二十六日、午後三時、運動場は興奮の坩堝と化していた。(ワいわい)『走る走るノ河西君つめている。大きく三位を回復して、第三走者栗山君が流く』(中略)

今、栗山君リレーラインにはいつた。さあノアンカー減田君、助走を開始。バトンをもらってー速いノ速いぞ。今一人抜いた。二位だ。歓声は入り混じってもう聞こえない。第二コーナーを過ぎて減田君、どんどん速くなる。あと二十米、抜くか？ここで五組、二位以上なら優勝だ。二者一体となって、ゴールノゴールインノ二の五優勝、応援席から級

友が飛び出した。胴上げで四人とも、もみくちゃだ。『……こうして第二十九回体育大会は幕を閉じた。』

時おり、祭り騒ぎの体育大会に反対する声も聞かれるが、私はこれで良いと思う。二人三脚も、借物競争もたいへん楽しく、従って大会の花形、リレーに大変な熱が集まり、まさに、クラスの親睦を深める絶好の機会である。応援合戦も文句なく楽しい。(今年やはり花の応援団がはやっただなあ)私はこの雰囲気が大変好きである。(文中、仮名使用)

## 文化祭

盛りだくさんの大手前の秋の行事の総決算とも言ふべき文化祭が、十月の初め、行事の連続で体力も限界に至ろうとしている頃やつてくる。

第一日は校内で開かれる。気球やタコ上げ、自主制作の映画や劇といったものからお化け屋敷まで、それに本部主催の「素人名人会」もあっていろいろと楽しめる。一般公開のせい、何となく華やかなムードの一日だ。夜のファイアーストームは、ロマンチックなムード満点と言いたいところだが、そう思う

のはカッパルのみとか……。一人ものにとつては、夜風がいつそう身にしてみる。

二日目は会場を森の宮の青少年会館に移して行なわれる。文化系クラブの発表やコーラス大会の決勝があり、これぞ文化祭ノといった感じの一日。一次、二次の予選を勝ち抜いてきたコーラスは聞きごたえもあるし、文化系クラブもはりきってやってくれる。

このように、とっても楽しい二日間の文化祭だが、より一層の充実をはかるために改善すべき点も多いと思うし、私達生徒も文化祭に対する姿勢を改めて考え直してみたい。まあ、一年生は楽しみにしていて下さい!!

## コーラス大会

体育祭や文化祭の準備でたいへん忙しい時にコーラス大会の一次、二次予選が行なわれます。そして決勝は文化祭二日目に……。

今年課題曲『愛そして風』の楽譜が夏休み前に配布されたので、練習期間は十分にありました。しかし始めるのが早いクラスと遅いクラスがありその分、差がついたように思えます。特に一年生は、まだよく様子がわからず、ぎりぎりになって始めたクラスが

多かつたらしく二次予選にはとうとう一クラスも残らなかつたのです。その他三年の合併のこと等、改善の余地ありというところでは

## マラソン大会

二月の中頃全生徒参加の大阪城マラソンが行なわれます。男子外堀二周、女子一周です。女子が出発して、後から男子が出発。男子はゴールの時の苦しそうな(平然とした?)顔を女子に見られるわけです。(照れる姿のかわいい?こと)このマラソン大会めざし、三学期の体育の授業はほとんどマラソンです。

## ◎ クラスマッチ

球技大会の多い我校。クラスの団結、クラス意識を高めます。御紹介しましょう。

### バレー・ボール大会

一学期六月の始めに男女のバレー・ボール大会があります。九人制と六人制と両方です。この頃になると朝早くから、昼休み、放課後とボールを追う生徒の姿がみられます。やはり練習量があるのをはいいます。強いですね。

### サッカー 大会

二学期十一月の中頃に男子のサッカー大会があります。男らしいスポーツですね。女子の黄色い声がとびます。男子は少々照れながらそれでも一生懸命です。優勝クラスは一年三組、二年二組、三年九組でした。

### バスケット・ボール 大会

男子は三学期に女子は男子サッカーと並行して行なわれます。ここで男子は女子の強さに驚いてしまうのです。いつもは、おとなしい人も、ここぞとばかりに大ハッスル。たまに女子ラグビーと間違える人もいるとかいいたか……女子優勝クラスは、一年二組、二年四組、三年三組でした。

### ハンドボール大会

三学期一月に三年、二月に一、二年の女子が行ないます。

### ラグビー 大会

三学期に男子が行ないます。ハンドボールもそうなのですが寒くてからだ固くなるのか、けがが続出。気をつけましょう。

もうひとつクラスマッチで御紹介するものがあります。九月初めに行なわれる水泳大会です。水泳訓練や、夏休みの練習の成果を発揮するよい機会です。がんばりましょう。

数多い行事の間をぬうようにして行なわれるクラスマッチ。クラス全員参加して団結し勝利を得た時の感激！

試合そのものも大切ですが、いかにみんな協力して練習するか、綿密に打ち合わせるかということもクラスマッチを行なう、意義だと思います。

十月十七日から二十一日まで、二年生の九州方面への修学旅行が行なわれました。いろいろなエピソードがありました。宿題になっていた俳句から選んで次に載せますので、その一部分でも知ってもらえると思います。



## 修学旅行名句選 九州の旅

(森・杉野両先生 選)

- \*この宿にとも宿らむま白き蛾  
二の七 河本 賢治
- \*コスモスの赤さに消えたえびの高原  
二の二 田中 又衛
- \*消燈の後に林檎のかおりあり  
二の一 足立弥智代
- \*砂浜に足跡ふたつ秋の海  
(指宿にて)  
二の四 久保 順彦
- \*夜明け前ふとんぬけ出す友の影  
二の五 矢頭 秀美
- \*放牧の馬の背に舞う赤とんぼ  
二の四 竹内 理子
- \*牛の背の数字が揺れる草千里  
二の七 山下久美子
- \*空気よお前はどこでも透きとおれ  
二の七 村上 宏尚
- \*戦跡は今も昔もただ寂し  
二の六 中村 裕美
- \*火の山の溶岩のかけ花すすき  
二の九 寿田 隆宏
- \*旅おわるつるべ落しの行く秋に  
二の八 中村 登美
- \*波の果て船を吸い込む夜の海  
二の二 神矢 弘
- \*トラまでがバス九台にあきれ顔  
(サファリパーク) 二の一 中西 隆子
- \*毛の色も冬をむかえるけものたち  
(サファリパーク) 二の八 村藩 保春
- \*高原に咲くコスモスが秋を呼び  
二の七 宮崎美佐子
- \*秋風が夜明けに起きて窓叩く  
二の六 麦踏 早苗
- \*我が中をひそとたしかめ秋の旅  
二の一 中川和加子
- \*火の山の火を消すごとく秋の風  
二の四 野山 智司
- \*薩摩路や田の面に寄する黄金波  
二の三 広岡 里美
- \*虫鳴くや日本の秋みつけたり  
二の二 馬屋原 修

# 学年紹介

## 一年

不安と希望の入り混じった複雑な気持ちで入学してから八か月。クラスの雰囲気はわかっても、学年カラーがわかるまでいきません。そこで、アンケートによってみんなの意見を聞いてみました。

### (1) 入学以後の感想

- 中学より楽しい。
  - のんびりすぎるムード。
  - 無気力が目立つ。
  - 温室のようだ。
  - 各人は個性のある生活を送っている。
  - クラブ活動が思ったより盛ん。
  - 行事が多い。
  - 楽しく、なごやか。
  - 自治会が不活発。
- (2) 勉強について
- 勉強というものは個人差が大きく、それによって意見もまちまちである。しかし、この

学校の勉強が「難しい」と答えた人が多い。そして、どんな人にも共通して言えることは「やらなければならない」と思っている」という事だ。中には「強制的だ」と答えた人もいた。その他「もっと余裕のある勉強をしたい」「手を抜く教科が増えた」「一つの事をしているも他の事が気になってどっちつかずになってしまふ」などと悩んでいる人が多いのが目立った。また「もっとみんなにわかるように授業を進めてほしい」という先生への希望なども見られた。

### (3) 親友像

理想の親友像の条件としては、まず第一に「自分の悩み事などの相談にのってくれる人」が挙げられた。「自分を理解してくれる人」「思っていることをはっきりとお互いに言い合える人」「けんかをして、結局は以前よりも仲良くなれる人」等が多く、また、「時には自分に最も厳しくなれる人」とか「普段は離れていてもいざという時力になれる人」などのように、日頃のつき合いとしては、或る程度の距離をおいたつき合いを求めているが目立つようだ。ほかに「親友は必要だがなかなかできない」といった声も多くあった。

### (4) 先生と生徒の関係

先生方と初めてお会いしてから半年以上経った今でも、「気軽に話にくい」「とっつきにくい、うちとけられないのが寂しい」などと云った声も聞かれるようだ。決して先生方と対立し合うわけではなく、寡黙気はともなごやかなのだが「気軽に話せる先生もいるけれど、話す機会が少ない。」と思う人が多いようだ。けれども、このままの状態では、いろいろではなく、昼休みやR、その他いろいろな時に、お互いに話し合う機会を作り、みんなが話し合ってみてはどうだろうか。

「生徒が、気軽に相談をもちかけられ、先生もそれに応じて下さる、そうならば、すばらしい。」「我々生徒の方から、もっと積極的に対話をはかれば、得られるところは大きい」と云った声もあり、皆、それぞれに先生との親睦を深めたいようだ。

### (5) 両親について

父親に威厳を、母親には優しさや包容力を求めるものが多くあった。また、両親共に「いつも、私達にとって、人生における模範を示してくれる人」「最も頼れる相談相手」であることを望み、「いざという時には必ずいてくれる」「いなくなることを考えられない」などその存在の大きさを強調していたも

のが多かった。

#### (6) 教育について

世界の発展・進歩の源で、生涯絶えず人格を磨き、教養を高めるといった理想や、現代の教育に対し、失意、あきらめ、批判、疑問などがあげられた。

#### (7) 三無主義

「我々は、三無主義などではない。」と否定したものが割合多く、また「三無主義者の存在は社会が悪いのである。」という人もいた。「三無主義者といわれる人は、世の中から逃避し、自分に甘えている。」「人生の敗北者であり、存在の価値など全くない。」という厳しい意見も多かった。けれども、逆に「他人に迷惑を及ぼさぬ限り、別にかまわない。」などという意見も見られた。

「若い我々には可能性があるのだから、自分自身に挑戦すべきである。」という積極的な意見も見られた。

#### (8) 金蘭会について

まだ入学してから一年にも満たない私達が同窓会について考えるというのは無理があるかもしれない。「存在は知っているが内容は知らない。」「よくわからないがよい事だと思ふ。」などという意見が多く、ただぼんや

りとしか思い浮ばないのが実態だ。しかし、そんな中に、一卒業後に再び出会う架け橋になってくれるものだ。」という意見も見られた。将来母校を思い出した時、金蘭会という組織を通して母校に接することができる。皆形こそ違おうが、金蘭会というものに、何らかの期待を持っているように見受けられた。

#### (9) 学年の特徴

「わからない」という人が多い。やはり学年全体の特色はつかみにくいようだ。これは学年単位で行う行事が少なく、また日頃の教室の位置も分散しており、クラス間の交流はさほど深まらないといった事が理由のようだ。

#### (10) クラスの特徴

○楽しく明るいクラスだが、たいへんやかましく、個性的で役者ぞろいだが、少々まとまりに欠ける。

○リミッター格の人、クラスをなごやかにしてくれる人が多く、まとまりがある良いクラスだと見る人が多いが、少しよそよそしいと感じる人もいる。行事の際にはよく燃える人が多い。

#### (一組)

○この上もなくすばらしいクラス。チームワークもよいが、ともすれば悪影響を及ぼす事もある。これからの仲よく、一歩ずつ進んで行きたいと思う。

#### (八組)

○この上もなくすばらしいクラス。チームワークもよいが、ともすれば悪影響を及ぼす事もある。これからの仲よく、一歩ずつ進んで行きたいと思う。

#### (二組)

○この上もなくすばらしいクラス。チームワークもよいが、ともすれば悪影響を及ぼす事もある。これからの仲よく、一歩ずつ進んで行きたいと思う。

#### (九組)

○この上もなくすばらしいクラス。チームワークもよいが、ともすれば悪影響を及ぼす事もある。これからの仲よく、一歩ずつ進んで行きたいと思う。

## 二 年

### 我学年に思う

○序文 私が現在、大手前にいて痛切に感じていることは、このままでだめだということである。今の大手前は、非常な甘えを基礎とした古い館と言つて過言であるまい。そして、その中心的存在の我が学年においては、その特徴を遺憾ながら表面化しているように思われる。皆さんはどう思われるか、反対される方も多いだろう。しかし、同意見の人もきつと多いにちがひあるまい。

それでは、現在の二年生の状態はどういう風なのか。私はここに学年紹介を書くにあたり考えこんだ。そして、サブタイトルを、「我学年に思う」とし、ある先生の御意見・御感想及び二年の文化委員の意見・感想をもとに、ここに筆を進めていこうと思う。まず、私は本論を大きく概評と分析との二分野にわけ、さらに分析においては、政治・経済・文化・社会の四つに分けた。なお、各分野の説明はその場で書いていくことにする。

### ○概評（長所・短所・望むことなど）

入学当初から我学年に言われて来た言葉が「のんびり屋」とか「無気力」という言葉が

ある。この言葉に対していろいろな意見があるようだ。例を示せば、最近の社会では頻繁に「青少年の非行」という言葉が使われている。それに対して我学年は平穩無事たるもので、それがかえつてもう一つ何か物足りない感じを与えているのではないかと。そして、それが「のんびり屋」とか「無気力」という言葉を生ませているのではないかと。確かにそう思われるところもある。現代社会の無秩序な状態の中で我校だけが何の大きな変化もないのだから。しかし、一部の高校生が「非行」という形で余ったエネルギーを発散しているのに対して、我学年に限つていうならば個人差はあるにせよ、それを勉強・スポーツ・恋・友情などに向けて発散している。私はこのことをすばらしいことだと思つており我学年の長所かもしれない。

しかし、ここに別の観点からの反対意見がある。なるほど余剰エネルギーを「非行」という形で発散はしていない。しかし、それを他の形（勉強・スポーツなど）で表わす時にその余剰エネルギーをはたして満足に使い果たしているだろうか。目的を見定めずただやたらに自我・我欲を満たしているにすぎない人が多いのではないか。ある事柄に迫つていく気力もあまり感じられない。それが「のん

びり屋」「無気力」という言葉につながつていふと思う。それが我学年の短所であろう。

次に我学年に望むことを書いてみたいと思う。それに関して、ここにある先生の書かれたエッセイがあるのでそれを使わせてもらいたいと思う。そのエッセイは「二年生の生徒諸君との出会い、それは偶然のなさしめる業なのでしようが、まあ平凡だが楽しい生活だと思つていきます。」という文頭で始まり全体的に優しいニュアンスの漂う文章である。その中で、我学年に望まれることとして「『大さくのびのびと野放図に』成長されるといふと思つています。」という文があった。我々は、先生のこの御意見を念頭において、あと一年ほどの高校生活をより一層の発奮と努力とで過ごしていくべきだと私は思つている。

### ○分析（いろいろな観点から我学年を探究していこうというねらい）

1. 政治（学年及び学級活動）  
先の概評で、我学年の「無気力」という言葉が問題にされたが、三無主義と言われるように「無関心」「無責任」という言葉が次に脳裏をかすめる。そして、この二つの言葉「無関心」「無責任」は我学年にもよくあてはまるようだ。学年及び学級活動には、つきま

のこの二つの言葉。何をするにつけても先頭に立つ人達は決まっています、その一部の人達が骨を折ってそのことが終わる。文化祭などの学校行事が近づくたびに私は痛感する。そういう人が多かろうと少なかりうと私が感ずることはこの二つの言葉で表わされてしまふ。残念なことだ。しかし、残念だと思つてゐる人がどれほどいるだろうか。そのことに問題はあつた。『無関心』『無責任』とはいうものの、しかし、時として皆の心が一つになることがある。私はその時、異常なまでに感激してしまふ。決して表には出さないが、だれしも私と似たような感情を抱いてゐるのではないだろうか。これこそ団体行動のすばらしさと思つてゐる。また、これから

2. 経済(金銭面) 回答率(80%)

|             |        |
|-------------|--------|
| こずかい(除、食事代) | 貯金     |
| 不定 20%      | ナシ 17% |
| 2千          | 1万     |
| 3千          | 5万     |
| 4千          | 10万    |
| 12千         | 20万    |
| 13千         | 10万    |
| 14千         | 20万    |
| 21          | 23     |
| 21          | 11     |

この章は、アンケートの結果だけをのせ、

後は読者の皆さんの参考になればと思う。

3. 文化(学業面、将来の希望など)

まず、勉強のことであるが、学区がかわつて公立校の学力低下が叫ばれている。確かにそうであると断定できる。残念ではあるが、我が大手前、我が学年にしても同様であり、先生方も認められてゐるようだ。もう一つ残念なことに我が学年に限つて言えば学力低下を生徒自身が自覚してゐるにもかかわらずその気持ちは表面に態度として表われていないことだ。そうは言つても左表でもわかるように将来の希望は、有名校に向いてゐる。まさしく、名門校のもつ伝統に甘えてゐるのではないか。私自身、そのことを現在痛切に感じている。

将来の希望(321人中288人が回答)

|    |     |     |     |     |     |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 東大 | 39人 | 神大  | 27人 | 四年制 | 47人 |
| 京大 | 51  | 国公立 | 81  | 短大  | 2   |
| 阪大 | 24  | 医学系 | 5   | 就職  | 12  |

次に読書のことを取り上げよう。アンケートの結果、一人6冊/月であつた。その内訳は(雑誌・マンガ類)：(小説類)：(科学・専門書類)：(その他)118：4：1：1であり、小説だけに限れば一人17冊/月であり決して多くない。ジャンルについて言えば、ま

ず科学・専門書類。読書量は少ないが、その数の大半は男子。趣味においてかなり専門的な知識を得てゐるようだ。女子では、強いて言えば『フアツシ』雑誌」かも知れない。そうだが、内容は種々様々であるそうだが、流行の服・くつ・かばん等の紹介から美容体操の仕方・そして秋の教養特集などというものまでに及ぶそうだ。17才の乙女も仲々大変なのだそう

だ。また、「出てから一年たたないような本をけつして読んではいけない」(エマーソン)という言葉に忠実に守り、文学全集を片っぱしから読んでゐるような人もゐるそうだ。

4. 社会(私生活など)

この章は、二人の人からの感想を紹介したいと思ふ。

ある人は、高校生活が終わつたと言つてゐる。つまり後に残るのは受験生活だけだそう。私には悲観的な考えのように思えるが。ある人は、アベックが歩いてゐるのを見て彼らがもし熱烈な大恋愛をしてゐるとすれば敬意を表さなければならぬと言つてゐる。なぜかと言へば、彼らは燃えているからだそう。そして自分を燃やす火ダネを見つめることもできずに情性にも似たものによつて生かされてゐる自分とは違ふからだそうだ。

### 三 年

#### ☆ 三年 一組

三年一組の特色は、第一にまとまりがよいことである。セカンドパーティーの出席率は99%、三大学判定模試判定模試キョウザの部には10数名が参加という輝かしい実績をあげている。第二には、熱心な学習態度。典型的な例は「政経」の発表である。そのテーマをみると「ミク25事件にみるロソ関係」「毛沢東死後の中国」「寺山団地の青空市場」「にせ電話事件（鬼頭判事補を斬る）」「老人医療」「多国籍企業がかかえる問題」「コピト公害と著作権」「日本シリーズにみる民族性とのみ屋（がんばれ阪急ブレイブス）」など多彩な内容である。

#### ☆ 三年 二組

皇国ノ興廃 此ノ一戦ニ在リ

各員一層 奮励努力セヨ

これは東郷平八郎大將が日本海海戦の時に言った有名な言葉である。四月以来、頭の切り換えができず、ややもすると脱線しがちであったわが二組も、最近では各人が勉強の鬼

と化し、鬼畜東大、八大学撃滅を目標に（八大学とは京阪神三大学、大市大、関関同立をさす）日夜努力している。二組の衆よ、そして三年の同胞達よ、入試まであとわずか。全力で受験戦争を勝ち抜こうではないか！

受験戦争ノ興廃 此ノ一ヶ月ニ在リ

各員一層 奮励努力セヨ 東郷平八郎

#### ☆ 三年 三組

確かに、このクラス不完全燃焼であった。お祭り気分にならされた行事以外、例えば、球技大会でも、女子の好成績にもかかわらずそれをみんなで喜ぼうとする雰囲気は少なかったし、その他の学級活動でも、あまりのらなかった。しかし、心の底からさめきっていたとは思いたくない。何かに熱中したかったが、その気持ちを押し、または押えられてきたのだと信じている。実際、このクラス、かなり個性の強い人が集まっており、それらがフルに発揮されれば、想像絶するクラスが存在していたはずである。その期待を破ってしまった。まことに受験勉強恐るべしである。

#### ☆ 三年 四組

「あきませんわ、こんな点では。お前らの

頭の中はクサッテオトル」と某先生。一方、「理系のクラスは殺伐としてますけど、四組は生け花なんかがあってしっとりしたムードです。」とおっしゃる先生。まあとにかく成績面ではあまりふるわなかった四組だけれど野球部エースを始めとして、なかなか将来平凡には人生を送りそうにない有望な少年少女がくすぶっていたことも確かで、その意味でも十年後の同窓会が楽しみなクラスであり、また、「その姓、十年過ぐれども、つゆ変はらぬ姫君」が少なくとも十人はいそうな、そんなクラスであった。

#### ☆ 三年 五組

我が五組が様々思い巡らしつつ筆を走らさば、幾千頁をかなさん。自治会の懐の堅き由にて、僅か数日の事を記さんのみ。体育祭の日の事なりしが、運動場には一帯のむくつけき龍の舞へり。こは前日より我が組の総力を尽し、莫大なる努力と金四千七百五拾円をば費やしし末、当口漸くにして成りしものなり。狂しき音階に囲まれつつ舞ひし様、狂龍なりて昇龍に非ず。龍に仕へたる者共が奮勇も空しく、最下位にて果てり。嗚呼、嘗ての狂龍泣き龍となり果てぬ。後の二次会なるものに



て、写真機に皆の向かひたる様、まさに狂龍の如し。「龍公書著」「舞龍」より流出」

### 卒三年六組

目を閉じるといふ様な事が浮かんできます。いろんな事があり、いろんな物を見ました。常に自分よりクラスに重きを置き全生徒に模範を示してくれたYさん、感謝してまます。

みんなの先頭に立ってクラスを導き、水泳大会に十回出たZ少年、尊敬しています。

いつも笑顔をやささずクラスにも笑いをもたらしたA少年、生涯忘れないでしょう。

女の園太さと愚連の強さを教えてくれたOさん、末ながく御健康をお祈りいたします。

いろんな事がありました。いろんな事もやりました。確かに一生懸命でした。そして静かにペンを置きまます。読み返さずこのまま。

### 卒三年七組

「ピシッ」K君の頬の鳴る音が講堂に響き渡った。文化祭で七組が上演した「帆上げ」兵衛一は役者の下追真の演技と地震のセリットによって大喝采大好評を博した。これこそ七組人民が高校生活への情熱の残り全てを燃やし尽くしたものであり、K君の頬の鳴った瞬間に七組全員の協調感はその極に達したのである。七組の朝は担任鈴木先生の「遅刻シタラダメダヨッ」に始まり、O君には「渾美でない渾美」が登場し、日本史では「シベリア鉄道一氏が教室を駆け巡る。紙面が尽きた。14組30段方の健闘を祈って（四・五年先やるな！某先生）筆を置く。ハイ本閉ジテエ」

### 卒三年八組

ピアノ奏鳴曲第8番嬰ハ短調（Op. 308）

第一学章 *Andante sostenuto*

静かな雰囲気、「担任の主題」で始まる。

曇々出てくる「良一の三連符」は全体を引き締めるに十分の音程を保ちながら躍動する。

第二学章 *Andante sostenuto*

力強い「ラマへの讃歌による主題」が、来たたる夏の補習に対する情熱を唱い、続く「実力のテーマ」が憂鬱な表情で三学章へ続く。

第三学章 *Andante sostenuto*

各音符が騒す暗澹たる気分は「驚愕」を思わせる「世界史のフォルテシモ」により一掃され、限りなき勝利への希望がコーダに響く。

### 卒三年九組

私達のクラスをどう言い表わしましょうか。びったりとする言葉であるのかな。「静」まさかね。「乱」かなりあたっているけれど

すべてじゃない。つながりの感じがないもの。「和」もあるんだから。女子は一部の例外はあるけれど「つつましい」男子は「無邪気」というか「ばか」というか、三年の理系とは思えない感があるね。三年のクラスというのは、忙しくてあまり記憶に残らないというけれど、このクラスはとても印象深いんです。ありふれた言葉だけれど「いいクラスだった」と言いたいな。だって私は卒業してからも、みんなと集りたいと思うのですから。

### 卒三年十組

十組。二年と七月前まではなかった。それがなぜか我々の合格した年だけ十組ができた。おの子三十名。めの子十四名。典型的な理系のクラスである。教室は他の九つのクラスとは別で二年生との並びである。戸をあけると十五対七で男くさがむとす。めの子の香り(?)は少しもない。現在の我がクラスは花がさく!! (意味は御推察のほどを) とにかくなかなかまとまりのあるクラスである。なにをするにしても一致団結するのである。文化祭しかり、運動会しかり。ともかくあと三カ月で三年十組は解散してしまうが、それまでの間、みんなががんばろうじゃないか!!

# 大手前 90周年に際して

## 大手前

——その流行と不易と——

杉野としゑ先生

「行く川の流れば絶えずして、しかももとの水にあらず」。方丈記の哲学はそのまま九十星霜を湧し来たった学校という存在に對する私の感慨でもある。

編集子からの依頼で大手前今昔ようのものを手すさびするはめに なったものの、正直いささか苦慮の体である。まず、振り向く所余りに茫漠たる世界で視点が定まらない。つぎに、そこにあるものはとかく非生産的だけだるさの感傷であって、時の屈折作用に遭って もはや歪つた像が無秩序に散在するだけではないか。ともあれ、何時になく多彩な顔の揃った過日の九十周年記念の口之二・三の対話と独白を掲げて往時を偲んでもらおうと思う。

①急ぎ足にやって来る男性。もはや中年風。あ、これはテレビ二部「長刑事」でおなじみの「新田刑事」であった。今日は司会を引き受けて忙しそうだ。三年ばかり逢わなかったと思う矢先に声がかかり、「先生、少しも変わっておられませんか」。これは翻訳すると、「誰だか判定することが可能な程度に変わっている」ということだ。演劇部・Fである。あの頃は文化系クラブもなか

な活発で、文化祭ごとに二つの舞台を持ったものだ。クラス参加は無縁のこと、E・S・Sの舞台もなかったからか、演劇部は関心を集めたし活動も質量ともに手ごたえがあった。予選会にも本部の要望で寸劇をやったが、モリエールあたりを短期間にまともていた。

②こちらは恰幅のよい某テレビ局員。東区在住だった故に交流の時北野から振り当てられて来た一人である。高校二期生に当る。

「ぼくらの時は共学の草分けでね、弁当の時間が面白かった。男は習慣で十時頃、立ち喰い、寝喰い、中には塀の上に腰かけてる奴もいた。ところが女の子はきっちり昼休みにグループで集まって屋上、中庭、プールサイド等、眺めのよい所で和やかにやっていた。ピクニックかいなとびっくりした」。なるほど女生徒は万事珍しく映ったろう。話している中に訪問着姿の元ピクニックがやって来て私はさよなら。

③子供連れの女性。——かつては大手前にも女子ばかりのクラスがあった。カリキュラム上は家庭科が多く、代りに数学や物理が少なかった。大学へ進まず直接社会に出る人で構成されるのが普通だったが、勉強はよくやった。大学進学者の増加に伴ない三十七年を以てこの種のもは消滅してしまっただが、恐らく史上最後になるであろうその年のクラスを私は担任した。子供はもう小学校へ行っているそうなる。

④ずっと若い数人の群。大学院生も混っている。「学校の頃はいい分悪いことしました」。立派な背広で照れている。——そうだ。この顔は私を困らせた顔だ。やんちゃなクラスで万事活気のあるのはよかったが、授業に発表形式でも取り入れようものなら大変で

ノルマの度を超えた内容を詳細に述べまくり、続いて質疑応答になる。合法的進捗妨害作戦にこちらは時計相手に嘆息するのみである。

不思議に末端のことばかり鮮烈に蘇ってしまりが無い。こちらで大手前生の気質というようなことを考えてみるのに、元来、個性が強くて、何事にも熱心で、一芸一才に長じたというか、特色を持った人が多かった。授業とクラブ活動などを巧みな時間さばきでこなして、灰色生活どこ吹く風であった。

思えば学校とはおかしな生き物だ。年々歳々人同じからず。それでいて後人は先人の無言の語りかけに耳を傾け、自分のペースでそれを追いかけて追い越して行こうと青春をかける。

もとの水でない水も所詮は一つの大きな流れの中の水なのである。

## 現代大手前生に望むこと

綿谷芳夫先生

第二次世界大戦峻烈な昭和十八年から大手前で体育を通して生徒指導に専念して来た私が現代大手前生に望むことは……人間は金が出来、社会的地位が出来ると次は必ず健康のことに目を向けるものである。しかしその頃からでは既に手遅れである。身体や精神は子供の時から二十四、五才までに鍛えに鍛えて、強健な身体と健全な精神と明晰な頭脳を育成しておくことが大切であり、精神と頭脳はその後も一層磨きをかけるが、身体は出来るだけ大切に適切に使用して機能の衰えかたを最小限にするように努力し長持ちさせること

が長命の秘訣であり、将来永く人間を幸福に導くための基盤である。……永い人生の中で大手前時代を如何に送るべきか？……諸君!! 受験勉強のために、かりそめにもスポーツをすることを忘れたり、ないがしろにしてはいないだろうか。もしそうであれば晩年必ず後悔しなければならぬ時が到来することは必至である。そこで私は声を大にして諸君に申し上げたい。一若いうちに身体も精神も頭脳も十二分に鍛えておけ、そして生涯を通して運動に、勉強に親しめ!!

それがために大手前時代はやはり運動クラブで、良き指導者のもとで大いに運動もやり、大いに勉強もすべきだと思ふ。運動クラブで活動をする身心の鍛練は言うに及ばず、時には試合で優勝した時の感激や惜敗した時の無念の情も体験し、この勝利の感激の裏には、日々の命がけの練習と試合にそなえ周到な準備や最良のコンディションで常にベストを尽くすことなくしては到底味わい得ない貴重なものがある。これは大学入試にも通じるし、又何事につけ強い意志で貫く習慣やルールを守るというフェアな精神、特にチームスポーツでは時には個人を犠牲にしなければならぬこともあり、個人プレーやスタンドプレーは絶対に許されぬことも知らず知らず

に身につくものである。しかし諸君の中には運動クラブにはいることに抵抗のある人が多いが、これは運動と勉強の両立の問題で仲々むづかしいが、人間の素質や両立の程度で出来ないことはない。立派になし遂げた諸君の先輩達が沢山いる。硬式野球、ラグビー、バスケット、バレー、水泳、サッカー、柔道、テニス、陸上競技部……等々の選手で東大、京大、阪大に入學した人々を具体的に調べてみれば枚挙に遑があり

ません。特に印象の深かったのは大阪で優勝し全国大会に出場したバスケット部の選手が阪大の医学部に入学したことである。太手前に入学出来る位の素質と意志さえあれば必ず出来ます。たとえ出来なくとも私は尚立を目指して努力するところに人間が出来てくるものだと思う。

何も運動クラブに入らなくても、自分でスポーツや運動を適当にやれば健康が維持増進出来ると考えている諸君や、美容体操さえすれば健康で美しくなれると思つて頑張っている女性もいる。しかしあれは美しい人がウラウン管に映っているものであつて、マネをしても決して美しくなれる筈がない。又激しい運動は劇薬にたとえらる。適量を与えれば有効に身体発達の刺激となるが、量を誤ると逆に障害や疾患の原因となる為その匙加減が非常に難しいのである。まして健康法として運動を実践するには個人個人の身体状況に合った目的別の運動をしなければ効果は期待出来ないことを忘れてはならない。

賢明な諸君!!

それだから自分で適当にスポーツや運動をするということがどれほど困難であるかという事に気がついてほしい。

(元、府立大手前高校教諭 現、金蘭短期大学教授、京都大学講師)

## 大阪に生きる太手前

三年 玉野 健 一

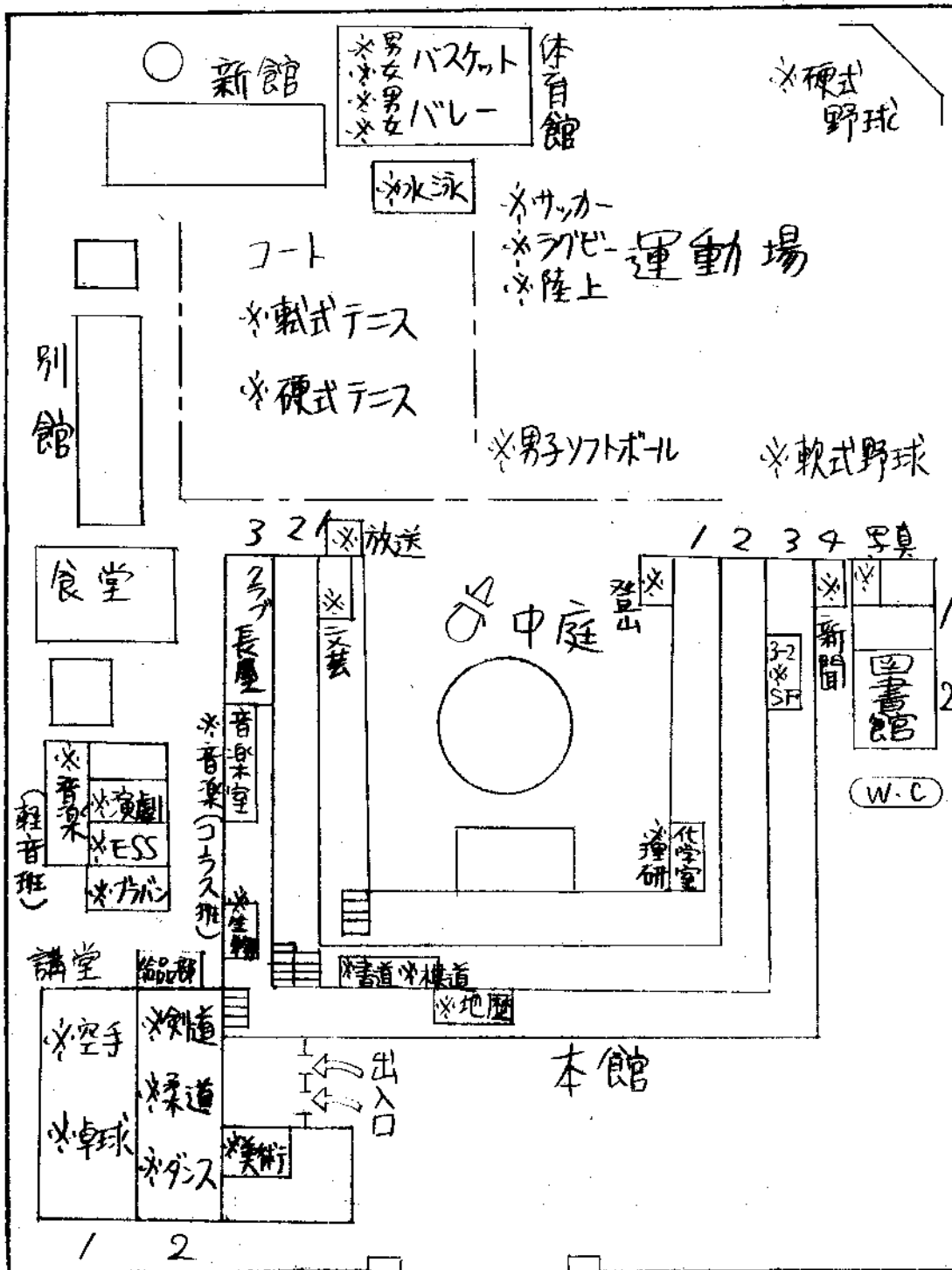
我々は大阪人だ。少なくとも十数年間、商都大阪で生きて来たの

である。しかし現在、我々の一体何人がその事を自覚し、誇りに思つてゐるだろうか。東京中心の日本全国画一化の波はもはや商都大阪の「関西における首都の代役」への変貌を余儀なくしようとしてゐる。通天閣の灯も今や風前のともしびである。過去を偲んで歴史に逆行する事は、あまり賢明ではないのだから、日本人が全て一つの類型に画一化されてしまったなら、これほど恐ろしい事もなからう。我々は幸運にも大阪に生きてゐる。東京に比べてカッコが悪く、ゴエゴエしているけれど、「どないしてでも生きてゆくんや」という、外観からは判断できないバイタリティに満ち満ちている大阪にだ。

大阪を舞台にした小説には必ず金銭の話が出てくる。何円儲けて何円使つて、といった風にしつこく表現されている。しかしこの金銭の話には、一生懸命生きる人々のおかしく悲しい、のっぴきならない生活がありありとにじみでている。そして、そこで手から手へと握られてゆく貨幣のぬくみこそ、「生きてゐるんや」という人間の生命を感じる。

我々は大学へ進んでマルクスをやり近経をやつて、所謂、国際的視野を持った社会人になるのであるが、お金のぬくもりも知らなくてどうして学問を世に役立てることができよう。世の中の全ての面で画一化は進むであろうが、我々太手前はエリート意識だけでなく、大阪人ならではの生活力のたくましさをも兼ね備えていることをもつと意識し、あのねばっこさと大阪人の合理主義とで、逆にこの画一化の波と闘わねばならぬのではなからうか。

# 〈クラブ紹介〉 (クラブ地図)



## ◆クラブからのメッセージ

### ○運動系クラブ

#### 空手道部

えーわが空手道部は少数精鋭主義をモットーとし、優秀な空手マンを育成しております。今からでも遅くはない。君も空手部にはいて不屈の精神を養おう。

#### 剣道部

剣道部員の平均像を……

性別：不明／身長：約160（分布が広い）／体重：？（絶句）／年令：約16才／その他：すべて独身（カナ？）／道場のぞいて下さい！！

#### 硬式テニス部

コートを走り、白球を追う。頼れる者は白分だけ。つらく苦しい練習。でも、そんな練習後の一杯のジュースの味は、クラブをする者にしか味わえない。

#### 硬式野球部

われら硬式野球部は前人未踏の夏の大会三連勝を目指している。今年の夏には必ずや念

願の三連勝を達成してみせることをみなさんに約束しよう。

#### サッカー部

戦績は目下連勝中の7勝3敗3分。「新たな勝利を追い求めて毎日若々しく駆けております。また、僕達は常に芸術的で知的なセンスと技術とをもつ「ブレイヤー」の集まりです。

#### 柔道部

我々部員全員は毎日道場にて練習に励んでいます。柔道の基本の体力の増進と精神の修養をめざしてこれからも励むつもりです。

#### 女子バスケット部

女子バスケットボール部とは陰で女子ラグビー部等と呼ばれながら、真面目に秘かに特訓に励むクラブ。和気あいあいとした校内で一番女性らしいクラブだと思えます。

#### 女子バレー部

モントリオールで見事金メダルを取った全日本女子バレーに続け／優しく恐いOBに囲まれながら毎日しこしこやっているのが我ら大手前女子バレー部。

#### 水泳部

わが水泳部は、大阪府内で常時優勝する選手を持つ。しかしその中に堅苦しい雰囲気は全くなく、先輩、後輩間には常になごやかな雰囲気が漂っている。

#### 卓球部

我が部は勝利を手にする為に一丸となり、講堂でピン球を追ったり打ち返したり。飽きもせずそれを繰り返し、時には悩むこともあるが、頑張っています。

#### 男子ソフトボール部

現在部員数15名と、一段と大きくなった我々の目標は、来年のE・H・Dであり、団体である。（決して夢ではない。）また、部員及びマネージャー募集中。

#### 男子バスケットボール部

部員数が少なく、場所・時間のないのが悩みですが、先生やOBの方のおかげで来年の試合に向かって毎日充実した練習をしています。（只今マネージャー募集中）

#### 男子バレーボール部

何かに燃やすのは若い命。何かにかけるのは一度の青春。その燃やすもの、かけるものが、我男子バレー部にある。伝統の中にも和やかさあり。バレー部へ。

高校生活楽しいことばかりの天国に思えるとかノ軟野をして、この黄金の生活を味わってみよう。

クラブを創るのを主たる仕事としている健全な同好会です。

#### ダンス同好会

豊かで繊細な感情を、身体や動きでいかに美しく表現するかを目的とし、文化祭の舞台めざして練習に励んでいます。あなたも気軽に参加してみませんか？

ラグビー部  
スポーツの中で最も男らしく、運動場の隅々まで走り回っているのがラグビー部です。練習はきついのですが、チームワークのとれた楽しいクラブです。

演劇部  
人生とは演劇であり、又演劇の真目的は人間性格の展示なり。もし、君が君自身を探索するならば、ぜひ演劇をなさい！まして演劇が好きなら当然なのです！

#### 登山部

わが登山部はアルプス縦走やスキー合宿等を通して大自然の中の最も人間的な生活をめざしている。母なる自然に抱かれんと欲する者の集合体なのであります。

#### 陸上競技部

練習熱心な個性あふれるクラブです。みんなの顔が明るいのには、部員間相互の激励と、自分の好きな種目を自分で練習しているという気持ちの表れでしょう。

#### 音楽部軽音班

毎週金・土曜になるとガンガンと大きな音をたて、府庁からの苦情ものともせず、級友の白い目にもじっと我慢し、先生のお叱りにもひたすら耐えてはや○年……ああ！

#### 軟式テニス部

大阪城の長距離走で鍛えた体を生かして、技能優秀。成績抜群？の部員の面々が一つの白球に全神経を集中し、コート狭しと駆け回っています。

#### E S S

行事の少ない冬から春にかけての活動は、テニブ・新聞・洋面などの活動を行ない、弁論大会や他校との交歓会を目標に頑張っています。只今、新入部員募集中！！

#### 音楽部コーラス班

『生きてるなあ』そう感じる時ふと口ずさむ歌はありませんか。自分の心を歌ってみたい者が集まってサークルができました。今新しい仲間を待っています。

#### S F 同好会

S F 同好会は S L 同好会でも S S 親衛隊でもありません。クラブ日誌と同好会誌チャンネル

#### 棋道同好会

棋道同好会は、将棋、囲碁、特に将棋を中心に実戦必研究を活動とし、高将大会大阪予選に出場し、毎年優秀(?)なる成績をあげ

#### 軟式野球部

軟野に入ってみると何と世界が輝いて見え

ている。希望者は土曜作法室へ。

### 写真部

技術面を中心に指導しています。時折発表があります。パットは使いますが、ボールは使いません。趣味として最高です。

### 書道部

ご存じですか？我が校にも書道部があるというのを……。文化祭で大いに活躍しています。場所は金魚鉢三階。あなたも格調高い墨の香りに触れては……。

### 新聞部

クラブの試合を直接取材した壁新聞も含み見かけより活動内容は豊富です。先輩との会話や他校訪問を通じて見聞も広められます。興味のある人は……。

### 生物部

容姿端麗、品行方正、成績優秀である事自他共に許す天下の名門生物部は遠く中国地方にまで足をのばすほど活動活発な部です。皆様の入部をお待ちしています。

### 地歴部

自己満足に満ちたクラブノート。足の向くまま気の向くままの見学会。主題研究。それに基づく部誌の発行。OBとの交流。etc. 仮入部者歓迎。

### 美術部

美術とは技術ではなく、FEELINGと個性なのだ。思うままに。キチガイといわれてもいい、個性豊かな人材を期待する……なんてええもんとちがうけどね。

### フラスバンド同好会

個性的人間の集団。文化祭の花と言えば吹奏楽団です。同好会だが内容はクラブ以上。それに部員間の連がりも強く、真実、充実した生活を送っています。

### 文芸部

文芸部を一口で紹介するとすればすみれのようなクラブです。目立たないけれど着実にそして一生懸命、誇り高くかおっているのです。すばらしい……。

### 放送部

我がクラブは今、中庭校内放送を目標に着

着と準備を進めています。番組tapeの作成の練習、アナウンスの練習などです。それから新入部員募集/おねがい。

### 理化研究部

我々大前を代表する理研は、日夜、日本の科学技術水準の向上のために貢献しているつもりである。故に、わが理研部に入部することは君達の義務である。

### 寮合宿について

実行に移したクラブはやはり運動系に多いようだ。まず学校で行なったのが水泳、剣道、バレーボールなど。OBも登場して、ふだんの2〜3倍のトレーニングだったらしい。長野県に遠征したのがサッカー、柔道、バスケット、で特に柔道部は他校との合同合宿だったそう。登山部は南アルプスにチャレンジ。文化系では少ないが、生物部、理研などが時々行なう。今年も生物部が広島は帝釈峡へ。どのクラブも4日ぐらいの日程で、夏休みのハイライトであった。





# 生 先 紹 介

今年は数学科特集を組みました。というのは、15・16号

には数学の先生がお一人も登場していないからです。

文章はいつも先生方にお教えを受けている（あるいははいじりまわめられている）人たちにお願いしました。

## 広 田 先 生

大手前高校の教壇に立たれて十六年の広田先生。茶系統の背広がとてもよくお似合いのダンディぶりです。先生のニックネームは、「ポッコリ」といいます。先生御自身でも「ミスターP」とおっしゃって皆が爆笑することがあります。授業の時、「いくぞー。この値をうしろから代入してやるとポッコリ出る」とおっしゃいます。これがこの名の由来（？）なのです。

先生の授業は一年生のスタートから厳しく、あてられて答えられない人は容赦なく立たせられました。それで数学は恐怖の時間だったのですが、今では楽しくて時のたつのも忘れてしまいます。先生から名答あるニックネームを頂戴する人もあり、「コッペパン」や「サハラ砂漠の瀕死の男」などがボンボンと飛び出してきます。

それから先生は人一倍優れた視力の持ち主。教務室から校門にあるメタセコイアの本にとまっている雉の羽の模様まで見るとか。

過日、ロングホームルームで大阪城へレクリエーションに行つた



時のことでした。クラスの女子三人が散歩していたのですが、二人はアイスクリームを食べていて、もう一人は持っていないでした。すると丁度ベントに掛けておられた広田先生が、「おい〇〇、どうして食べるの？あなたも欲しいでしょ。」とおっしゃって財布をとり出されたのです。本当にお父さまのように優しい先生です。

先生を一口で言えば、おもしろくて優しく、人気があり、コンピュータ顔負けの頭脳を持った誇り高き先生なのです。先生、いつまでもエネルギーッシュな授業を続けて下さい。私の人生で、先生にめぐり会えたことに感謝しつつ……。

## 井手先生

井手先生は、職員室に行きますと、いつも背すじをのばして坐っておられます。また、一年一組でクラスの方が遅刻しますと、たいへんおこられます。そして、一週間、早く来て先生の所に「今、来ました」と言いに来なさいとおっしゃいます。井手先生は、きつちりしておられると思います。

しかし、井手先生は、遅刻以外のことには、優しいです。例えば質問に行きますと、問題を紙に書きながら、ていねいに説明して下さいます。

あまり、生徒の中に入って来られないので、生徒のことを考えないとか、近寄りにくいとか言う人がいますが、そんなことはないと思います。かげで、心配して下さっているのだと思います。

ところで、井手先生は、スポーツマンです。まだ、数学でベクトルを習っていたころ、ヨットに乗るということを話して下さいました。夏休みなどは、何日もの間、海の上、ということがあるそうです。また、その時、ヨットの帆と風の関係は、ベクトルの原理と同じだというお話も聞きました。

生徒のことを考え、また厳しい時は厳しく、優しい時は優しく、自分の趣味も、楽しんでいらっしやる、井手先生は、そんな先生だと感じています。

## 稲川先生

我が二年九組の担任、稲川正義先生について、何か書くように依頼されたのですが、なにしろ、文才ゼロであって、思いつくまま気の向くまま、つれづれなるままに筆を運ぶことになりました。

まず本名！稲川正義、担当は数学、年令！ほぼ40代後半であろうと推定（あくまでも推定であって、案外50の舞台を越えてるかも！）通称、貫太郎、古タヌキ（困ったタヌキともいう）。我クラスが体育祭で大恥をかけた応援旗、セッケン、これに愛嬌タヌキが大きな顔して陣取っていたのは、記憶に新しいものでありましょう。こんな所にまで貫太郎氏は、はばをきかせて、入りこんでいるのです。（常に生徒と一体となる先生なのです！）

次は、貫太郎氏の人柄について！。感覚が鋭いというのか、何とこのか、とにかく、目につくもの何にでもニックネームをつけるのに、異常なほどに才能を発揮、キリスト、シューベルト、又、大変話し好き。若かりし頃の話、他クラスの話、いろいろな経験；限りなく話題に事欠かない方なのです。ともすれば頭の調子が狂いそうな数学の授業、それを笑顔をもちて全員健全に出席するのは、それが聞きたいからといううわさもちらほらと；（かくいう筆者も、なにをかくそう、その一人。）

されども、おこった時のものすごさ。なんせ、あの巨体から発せられる大声。（大声で名前でも呼ばれたら、マツアオ、恥が学校中に響き渡るのですから！）

とはいえ、おとなしく素直でさえいれば、やさしくって、おもしろい、生徒思いの先生なのです。

もし（まずはないと思いますが）まだこの大手前の名物先生を御存じなき人がいたなら、是非一度、職員室へお立ち寄りなさるよう

お勧めいたします。

## 小野先生

小野先生とは何者か。小野先生とは時間を超え、空間を超え、神出鬼没、やること奇抜、なすこと抜群、なにひとつ不可能事はなくすべてが可能、どんな問題も解くことができる大数学者である。小野先生は普通の人の三分の一の速さで歩き、微分でもスイスイ、三角関数でもツウツウ解けるのである。ニュートンとかライブニッツとかガウスとかユークリッドとかピタゴラスとか渡辺次男とか、そのほかいろいろと世に大数学者の数は多いが、どんな大数学者も、この大数学者の前に出ては赤ン坊いや、借りてきた猫同然。というのは何故か、それは小野先生が三年二組の担任だからである。(井上ひさし著「ブンとフンより借用」)

さて話交って、先生の御趣味は何であると思えますか？ それは何と登山なのであります。筆者などは、とても先生が登山をするとは信じられないのです。考えてもごらん下さい。先生が少々、否、かなりお腹の出た体にキャラバンをはき、リュックサックを背負っている姿は、どう考えても野菜の買出しに行く姿としか想像できないじゃありませんか。それに、あの出っ張ったお腹は登る時に邪魔だと思ふのですが。おまけに、先生はスキーもまた達人だそうで、(筆者には雪ダルマがスキーをはいっているとしたか想像できません) もう一つ、先生は碁を打たれるそうです。たまに相手をすると言われる中村先生がおっしゃるには「僕はまだ小野先生にはかないませんな、一ヶ所の陣地の取り合いに勝ったとしても、先生はいつも

大局的に見てはるから、全体としては、いつの間にか負けてますなあ。」

そう、この大局観、落ち着きこそ小野先生の小野先生たる所以ではないでしょうか。

最後は誉めたから卒業には響けへんやろなあ……この文章

## 香川先生

常に深緑のジャンパーを着用し、黒フチ眼鏡を光らせ、艶やかな黒髪をかき上げて、さながらケムンパスのように廊下を歩いている人がいたら：そう、その人こそ、香川定一先生でありましょう。先生はその御名前からして「一つに定める」という数学科らしい人ではありませんか。

さて、くどくど先生のプロフィールを紹介するよりも、ここで先生の全人格を集約したともいえる素晴らしい授業を公開しましょう。

(師)「今日はオリジ172番からやるか。○○、どうや？」

(徒)「はい、まず微分して……」

(師)「ここでXの関数は？」

(徒)「正。」

(師)「このとき元の関数は？」

(徒)「単調増加。」

(師)「よってXイコールで極大値はなんぼ？」

(徒)「3。」

(師)「よってこれは題意に。」

(徒)「滴する。」

(師)「よし、座れ。この事から次の定理が言えるね。(定理を述べて)このやり方、よう覚えとけよ。」

このように、生徒は先生の御言葉の末尾を補えばよいのです。ですから、筆者のようにめくらめっぽう答えても救われることがある救いの教えなのです。

先生は、たとえ叱る時でも、お顔にはきつと微笑を残しておられます。だから、筆者は先生のことを、そんなに恐くないと思ってました。しかし、ある朝、御自分の担任クラスが文化祭の二次会に行ったのを知られて、雷を落とされたのです。寝ぼけていた筆者は、びっくりしました。でもその後、先生は「どうせやるんやったら、先生も入れてほしかった。」と洩らされたとか。また、先生はしつけの面でもとても厳しいようです。その几帳面さ、仕事の速さ、先生こそ日本男児ではありませんか！

## 須崎先生

須崎先生は主に三年を教えていらっしやるとか。一年生は七組と八組だけ教えていらっしやいます。

先生の特徴は何といっても独特のイントネーションでしょう。大へんユニークでおもしろいのです。わからないでつっ立ってたらにこにこ、「わかりませんか。ではそのうしろ。」とおっしゃいます。こう書いたって通じないと思いますが、一度授業を聞いてみたらよくわかるんです。ちょっと変な答の時は黒板に？マークを書かれます。又、黒板に書いた答が違ったら、いとも簡単に「消しま

すよ。」(これも独特のイントネーションなんです)とおっしゃってさっさと消してしまわれます。書いた方はガーン。ああ又消されたか、という具合です。

特に最近の授業では、必ず一回爆笑があつて(眠けもその時さめるのですが)数学というイヤな授業の息抜きとなつてます。何しろ先生はよくのつて下さるのです。

先生はこのようにおもしろみを持ってらっしやると同時に、授業もわかりやすいです。でも速く進まれるし、あっちこち不規則に当てられるし、授業は緊張しっぱなし。(でも居眠りすることもありません。)それからちょっと延長が多いようです。特に3時間目の授業は決まって延長(といっても45分ですけど)なさいます。早弁の妨げとなるので、ちょっと困るのです。でもベルが鳴ってからの方が真剣に聞けるみたいです？！

それから先生は授業に早くいらっしやいます。体育なんかで遅れてきたら、あっさりと「遅刻にしときましたよ。」とおっしゃるのです。遅刻をちゃんとつけるのは須崎先生位じゃないでしょうか。

この前の90周年式典の時は、カッコよくモーニングを着て立派な司会をなさっていました。さすが、須崎先生。とても決まっていたと思いませんか。

## 多賀谷先生

「先生の中で誰が一番好き？」と聞かれたら、筆者は3年生になつて初めて教えていただいた多賀谷先生と答えるでしょう。正直のところ筆者は、3年のクラス替えの時、多賀谷先生のクラスとわか

って、びくびくしておりました。何故なら、大手前3鬼のお一人だし、夏は赤い団扇をバタバタとされて、大きなお声で授業されてる姿を見てきたからでした。又朝は遅刻はできない。放課後は先生がいらっしやってH,Rをさるし、宿題も必ずあり、(必ず翌日、答え合わせ。)と、聞いてたからでした。筆者にとって先生の厳しさと、きちようめんさは、やはり、この一年間苦痛でした。けれど、自治会祭に、喫茶店を催した時、マイクを以て2曲も歌って下さった事から発して、(無理矢理、筆者が頼んで…)コーラス大会も先生に御指導じていただいたし、体育祭で頑張れば補習をくしたると云って下さったし(結果、補習なくなりました。頑張りました。)とにかく、先生と共に何に対してもとり組んで来たと言えます。又筆者のクラスで起こった様々の事に、先生と体当りでぶつかっていったのです。筆者は、この一年で先生の中の先生を見つけたと思います。こんなに心から生徒を思っ下さる先生はいりませんか。随分先生に、筆者たちは心配かけてしまいましたが、先生あの筆者達に下さった心と励ましは卒業後も、きつと忘れない事でしょう。又将来、どんな事があっても先生の事を思い出し、悪たれ筆者達は必ずや頑張ってみせます。最後に、この紙面をかりて、御心配ばかりかけてすみませんでしたと筆者達は一言云いたいです。(P.S.校門の前で筆者がはでにころんだ時、笑わず起こしてくれた人は友人でなく多賀谷先生だった、筆者の1年の冬の悲劇より。)

## 中村先生

「5題出来なかったが後でわかった」は「5題捨てた」とあまり

変わらない。4題捨ててもよいか「1題は出来た」と言えるように頑張れノ!

これが、先生の数学の精神である。つまり何が何でも自分せやりに通せ、ヒントは見るなノということであるが、筆者のような凡人にはなかなかできないこと。けれど、先生の授業を聞いていると何だかできる気になってくるからアラ不思議。そこが中村先生の偉大なところである。大手前の数学教師の中で一番若く、熱意にあふれてまさに若き俊英の数学教師といったところである。(これくらい書いてけば卒業させてもらえるだろう……いや冗談です)

先生はまた、記憶力が素晴らしいというのも評判である。そう言えば、四月の最初の授業で皆が自己紹介をしたら次の授業からは、ポンポン指名されて(もちろん出席簿なしで)一同驚いたものであつた。先生は今も、週に一度コンピューターセンターとかいう所へ勉強に行かれておられる。日本当はコンピューターなんて嫌いだ、今の時代では嫌いだから知らなくてもいいというのは理由にならない。というのが先生の弁。いつまでも勉強し続けようとする先生の熱意には、まったく頭が下がる思いである。大手前の生徒諸君、我々の勉強態度も、先生のようにでありたいと思わないか。そうだと頑張らねばならぬ。僕も……チャートやろうっと。

## 沼田先生

沼田先生は、数学の非常勤講師として、毎週月曜日と水曜日に大手前にいらっしやいます。その関係上、先生と接する機会は、他の先生と比べてずっと少ないのです。しかしながら、そんなことには

かわらず、生徒の間では「ベクトル」というニックネームで通り、一年生ならだれでも知っているという人気者となりました。

授業は、先生の特技とも言える「以ひねり立礼」から始まります。それはちょうど陸上のランナーが、一秒でもタイムをよくしようとして、ゴールに入るとき、からだをひねって入る体勢とよく似ています。(つまり、だれでも簡単にまねができるものなのですが、だれがやっても先生ほどうまく、かつユーモラスにはできないのです。)それから、すぐさま授業に入られ、超スピードの板書と話で、生徒を退屈させる間もなく、計画的に授業を進めていかれます。

ところが、授業中問題を指名されるということはほとんどなく、(残念ながらオリジナルは例外。)その結果予習していかなければならぬという場合も少ないので、私のような予習恐怖症に悩む生徒にとっては、たいへんありがたく思われるのです。

また、何かと定義づけの好きな先生としても有名です。「………を定義づけてみよう。」とおっしゃった途端、定義からの応用、性質まで、いちいち丁寧に板書して、詳しく説明してくださいませ。またいつもその説明の後、「別にたいしたことないね。」と付け加えられ、それが定義の理解にとまどいを感じる生徒の困惑とあいまって大爆笑を生みだすのです。

最後に、いつまでも好感の持てる先生でありますように。



## 平瀬先生

角刈り頭に銀ぶちのめがね、我らの親分、平瀬先生の登場です。まず、外面的なことから紹介することにしませう。先生は、ご存知のとおり新婚で、一年前は真紅のネクタイでしたが、どなたの好みでしょう。近頃は落ち着いた感じのをしめておられます。

そして「平瀬スマイル」。これ語らずして先生を語れずと言われるほど有名なスマイルで、これこそ笑顔の真髄なのです。あえてカタカナで表現すると、「ニーヤ」とか「ンニ」とかいう笑いなのです。このスマイルを見ると自然と私達の顔もほころぶのです。先生の魅力ですよ!

次に内面的な紹介を……と言いたいのですが、それは秘められたことですので、先生の性格がよく出ていると思われる場面を二つ紹介しましょう。

まず、そろそろ暗くなりかけた頃職員室をのぞいてみると、電燈の光の中に先生の姿。何やら仕事をされています。推測その一、つまり大変勤勉であられるのです。(聞くところによると、先生は我我以上に常時チャートに取り込まれておられるとか。)

二つ目、文化祭前のある日我が組では文化祭の話し合いがあり、それが放課後遅くまで延々と続く間、先生は時々例の謎の微笑を浮かべながら最後まで聞かれて、適切な助言を与えて下さいました。推測その二、先生は勉強勉強だ……と慰められがちですが、ちゃんとクラスのことまで考えて下さっているのです。

以上の二つより、我々はもっと平瀬先生を知って近づこうじゃありませんか!

## 未完聖書

能因天主

ミカンが3つ道路にころがつていました。すると、そこへトラックが5台ジャリを積んでガタガタと走って来てミカンたちの上を通っていきました。ミカンはそれぞれうちつぶれて汗を出して死んでしまいました。でも、ひと袋だけがつぶれずに残っていて、独りごとを言いました。「兄弟たちは死にました。だから私は生きて旅に出しましょう。仇をうつために。」彼女は立ち上ってトラックの走り去った方に転がっていきました。「あいつらを殺そう。そうすれば私は善なる者になるからです。」正午の太陽がジリジリと照りつけたので、彼女の身体の汗が蒸発して、袋がしわになってきました。彼女は言いました。「ああ、神様私を見離さないで下さい。私は死んではいけないのです。」この言葉に神はお感じになり、雲を呼んで太陽をお隠しになりました。それでミカンはもとどおり元気になっただんどんと転っていきました。

後から、トラックがやって来ました。先ほどのとは違うやつです。こんどはハットを積んでいました。もうちょっとで彼女はこの大

きなものに踏みつぶされるところでした。彼女は祈って言いました。「私はもっと大きく強くならなくてはなりません。なぜなら私の兄弟たちを殺した者たちに勝てないからです。」神はこの言葉にお感じになり、彼女を「自転車」にしました。しばらくすると、今度は「ロテータ」を積んだトラックが来て、彼女を「はねとばしました。彼女は死にはしませんでしたが、ぐしゃぐしゃにうちこわれてしまいました。彼女は祈って言いました。「私はもっと大きくならなくてはなりません。せめて私の兄弟たちを殺した者たちと同じ大きさと力を与えて下さい。なぜなら、彼らに勝てないのです。」神はこのことばにお怒りになり彼女をもとのミカンにもどして、石を転がしておつぶしになりました。彼女は死にながら独りごとを言いました。「ああ、これいいのです。私が私の兄弟たちを殺したものと同じになろうと思ったのがいけなかったのですね。」

この話は、たとえ悪をこらしめると言ってもその為の悪をはたらいてはいけないうことです。

### 設問

1. 「教訓」は、話の内容から見ておかしくないか？
2. 「未完聖書」という題をよむとき、ウライタクならないか？

ピエロ

飛鳥紫苑

涙を笑いでごまかして

悲しみを冗談でまぎらして

いつも下手な演技でおおいかくす

私は哀しい三文ピエロ

そのくせ寂しがり屋で

独りぼっちで涙する

本当は理解してもらいたいくせに

自分から心を閉ざしてしまふ

そうさ、私は愚かな三文ピエロ

今じゃ自分で作りあげた

印象にしばられて

泣きたい時にも泣けもせず

必死で他人の笑いをさそう

そうさ、私はあわれな三文ピエロ

心を持つなど許されぬ

人を愛するなど許されぬ

それが私の定めなの

そうさ、私は三文ピエロ

ぬけだすこともできず

独りで耐えていくしかない

私は哀しい三文ピエロ



# 随 想



きびしさとむごい

大倉清校長先生

竹 千 代

「この親永、竹千代の養育を仰せつかうえからはいずれわが君のお役に立つよう、きびしいうえにもきびしくと存じまするが。」「わしはむごく育てよといっているのじゃ。きびしいとむごいとはちがうようじゃのう。」時は天文十八年（一五四九年、ザビエルが鹿児島にキリスト教を伝え元年）人質として八才の松平竹千代を駿府にあずかることになった今川義元がもり役の関口刑部少輔親永に命じた言葉であり、山岡壯八氏の大作「徳川家康」獅子の座の一幕まである。妹婿にあたる親永に義元は続けていう。「人を育てるに一番むごい方法は、早くから美食させ女性を近づけることとは思わぬかな。この二つをあずけて虎児じゃ龍じゃとほめちぎるのよ。」まだ少年ながら相当の面だましい。成人すれば恐るべき存在となるかもしれない岡崎城の世嗣竹千代を骨ぬきに育てようとする戦国武将の一面がうかがわれる。不運にも後に桶狭間で信長に敗れたとはいえ義元も当代における智将のひとりであったのであろう。

過 保 護

最近の過保護といわれる家庭教育も一種のむごい教育ではなからうか。異なるところといえば、義元のそれは独裁者のエゴイズムから出ているのに対し、いわゆる教育ママのそれは本能的な母性愛から出ていることである。ソフトムード一辺倒の子どもは依頼心強く自律性が乏しくなりがちである。「うちの子は親のいうことを聞かないから学校できびしく指導してください。」と申されてもなかなかきりかえられないものである。

母性愛から出る場合は動機が純粋であるためかその誤ちに気づきにくいし、またよくない結果が予想されてもつい安易な道に流されがちである。竹千代の場合、十二年間にわたる人質時代に魂をスイルされなかったのは本人の才能が非凡であつたうえに、雪斎和尚のきびしい訓陶と家臣たちの忠誠によるものであるが現代版むごい教育はわが子の折角の才能をむしばんでいく。温室で甘やかすことによって能力が伸長されるものではない。

根 性 づ くり

断絶という言葉が使われる。しかし青少年は誰しも断絶をよしとしていないのではない。断絶を口にするのは渴きを覚え心と心のふれ合いを求めているのではあるまいか。ところで今の学校はマンモス化し、バラエティに言んだ一〇〇人以上もの生徒を対象として、読み書き算数はもとより芸術、体育等百般にわたる広範囲の教育を計画的体系的に行う。効率的な教育機関ではあるが心のふれ合いを深めるということは大変なことである。学校教育の甘さについて私ども自戒すべきところもあるが、肝要なことは学校と家庭との連携



をいっそう密にすることであろう。

過日ある結婚式で、友はふまれふまれて豊かな縁をなすと聞いて  
いる。新婦とともに今後苦勞を乗り越えていきたいのでよろしくご  
指導の程を。」との新郎の挨拶が爽やかな印象として残っている。生  
徒諸君の多くは高校生活の真のきびしさと楽しさを追求していない。  
快樂のうち人間性を否定しようとした幾元のむごい教育ではな  
くて、家庭、学校ともどもに根性のある人間づくりを目指したいも  
のである。

## 第四高等学校

平 正 人 先 生

十一月二十六日の週刊朝日に、私の母校第四高等学校九十周年記  
念祭の記事になっていました。創立が大手前と同じだったのです。  
「奇しき縁……」とも言うべきでしょうか。とにかく、編集者諸子  
の注文に反するかもしれませんが、今回は、わが第四高等学校時代に  
します。校名は「ダイシ<sup>◎</sup>コウトリガッコウ」です。「ヨンコウ」  
ではないのです。「シ」なのです。世人のいみきらう音をわざと強  
調してつかうところは、若者のてらいだとしても、立派でしょう。  
だが世の習にさからうのは、やはりよくないようで、多数の自殺者  
が出て、遂に文部省から異例のお叱りをうけました。金沢の冬が敵  
しいからなのです。「トンネルを抜けると雪国だった」なんてとん  
でもない。北陸線の列車が米原について、太平洋岸の晴れた空を見

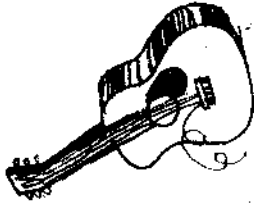
ると嬉しくて涙が流れそうになるものです。

願書提出の日は、とりわけ雪が深く、二米近い高さの校門を三、  
にしながら、受付にたどりつきました。合格発表表がまた厳しい。三  
員八十名なのに、第一次合格者が六十名。四十名近い留年者がある  
ので、更に二十名は不合格になるというのです。かくて、入学から  
卒業まで一緒だった同級生は四十名位にしかすぎませんでした。雪  
国は厳しいのです。

金沢の春は突然やってきます。兼六公園の桜が咲きます。ぼんぼ  
りが並木道につきます。独特の艶のある遠浪瓦の下に開かれた窓か  
らは朱色の壁が見えます。こんな部屋には美人しか住めないはずで  
す。四高生は声の限りに寢歌をその窓にむかって叫びます。手をつ  
くして、新しい帽子を古くみせますが、新入生はすぐにわかりませ  
ん。寒くもないのにマントを着ているからです。朴園の下駄の鳴らし方  
も下手です。この頃は連日連夜歓迎コンパがあったのだそうです。  
が、われわれの時は、日本国中食糧難の時代、放歌高吟の果ては、  
空腹をかゝえて、わびしく寝るだけでした。それでも先輩が苦面し  
て「イワシコンパ」をしてくれました。大漁のイワシを腹一杯食わ  
してやるうという好意でしたが、イワシを腹一杯食べるとどうなる  
か……。私はその後長くイワシの匂をさけるようになりました。  
食糧がない、停電が多い、暖房の術がないと、だから勉強が出来  
ないと言っては試験延期を要求してストライキをしました。だが、  
試験は延期しても結局はあるものだとかわかってからは、無駄な抵抗  
はやめにして、そのかわりと言えば変だけど「無能教授放校」スト  
ライキをしました。教人の先生が辞任されました。その一人が、「  
オーロラと中国地歴史」で世界的に有名になられた藤松先生でした。

無能なのは生徒の方だったのでしよう。今もこの先生には申訳がないと思っています。以上の三つが当時の四高名物だったわけですがそのわりには心豊かに暮らしていました。すぐれた教授陣のおかげだと今は思っています。当時すでにその業績で有名な先生方、後に詩人、作家、評論家、東大教授等になられ、今も活躍中の先生方ばかりだったのに、ずいぶん思いあがった態度で授業をうけました。先生方を大の虫、小の虫にわけて、小説に読みふける時間、質問をして論争に発展させ、進度をおくらせる時間等々、自分が教師になつて、あの悪童達を操って授業をすゝめられた諸先生の力量につくづく感心したものです。

そして、こうした傲慢さを責められると、校訓である「超然」という言葉に逃げ場をみつけたものです。金沢の日技通りを、超然として、裸足で歩きまわった四高生（節約のつもりでもあったのです）の写真が新聞に出ました。三重原の小学生が手づくりのわらじを贈ってくれました。伊藤武雄校長が、「純粋な小学生の心を傷つける超然は許せない」と訓辞された時は、骨身にこたえました。



## オリエンテering

### パーマネントコース雑考

小松素彦先生

#### ◇二ちゃん農業

秋空にひびく稲こき機の音。農村の機械化の象徴、明るい農村：と思いきや、乗っているのは老人ばかり（京都・丹波町谷山）。父ちゃん出稼ぎ、爺ちゃん、婆ちゃん、母ちゃんの三ちゃん農業どころか、二ちゃん農業だ。大都市をひかえ労働力は流出しやすく、しかも通勤に無理なところでは中年以下は家族ぐるみ転出し、二ちゃんだけが田畑を守っていることになったのだ。動力農具の最大のおとくだ。働き手が同居してくれているところでは、休日に労働力を投入出来るので、せいぜい手押し耕運機止まりだ（京都・山城）最近でターンの現象とかいって帰農者が増えているという。しかしそれは不況による失業者の帰村を体裁よくいかえたものに過ぎない。不安定な職にしかつかなかつた彼等を迎え入れる為に老人たちは畑を守っている。農村は今でも労働需給のクッションだ。

#### ◇故郷の廃家

「故郷の廃家」という少しおセンチな歌がある。私が国民学校の時、美人の六年生が学芸会で歌った。彼女は大手前高女へ入ったはずだが、だが実際の故郷の廃家はそんなロマンティックなものでは

ない。村の上層農民が、息子を町の高校へ送り、關西の有名大学を出し、一流会社へ入れた。息子は二度と故郷へ帰らない。雪に半年閉ざされる山村には希望はない。老父母は息子のものとへ身を寄せた。かくて廃家一丁上り。山林地主一家は重要文化財級の祖先伝来の家を空家にし、渠所所在地に新邸を造った。木材の取引にもその方が便利だからだ。山林経営は、これまた祖先以来自家の影響下にある現地住民にまかせ、自分は時々見廻るだけ。上層農民の方が難村例が多いとは意外だった。逃げ出すにも経済力がなく、また前述のような事情で、土地にしがみつかざるを得ないのはむしろ一般農民だ。

#### ◇在地の人びと

オリエンテリングをやっていると、通りすがりの村人が挨拶をする(愛媛・中山池など)これを人情厚いなどと感心してはいけない。まそ者を警戒する共同体意識のあらわれなのだ。路傍に馬頭観音や(福島・飯坂)庚申を祭っているのを見かける(埼玉・東松山B)。それを農村の詩情をそめるための小道具とだけ見てはいけな。日常的生産活動の成果を上回る収奪の中で、より安定した生活を願う中世以来の農民の願いがこめられているのだ。他人所有の山林の下草を無断で刈取ったことから大げんかをしている風景にぶつかったことがある。(兵庫・佐用大撫山)中世に村の共有地の下草は貴重な財産で、これを濫りに刈取るとは村掟で規制されていたことを思い出すべきだ。農村には農村の生きざまがある。それを勝手に解釈して抒情にひたることのないように心掛けるべきだ。

#### ◇ゴ

E

オリエンテリングのコースを歩いていて気にさるものはゴミだ。ハイカーの捨てた空罐をつないでスヌメおどしに使っているのを見ることがある(奈良・高円山)。これは若干ユーモアがある。見る人にゴミを捨てるなという呼掛けにもなる。ブッシュ漕ぎの最中チユーインガムの紙を見つけルートを確認したことがある(千葉・東金八鶴湖)。しかしゴミの犯人はハイカーに限らない。道路に延々と農薬の袋が落ちていた(××××××)。どう考えても都会の皆様方のお使いになるものではない。集落に近からず遠からずの山林を歩くせいか。ゴミの不法投棄にも出食わす。これは現地産と遠方の工場などから運んで来たものがある。勤労者山岳会という団体がゴミ拾い登山をやることもある。ゴミ拾いオリエンテリング大会、一等賞品ゴミ箱と罐ジュースなんていうのいかが？

#### ◇墓 碑 名

オリエンテリングでは、墓地在チェックポイント、アタックポイント、ポスト所在地であることが多い。福井県では一メートルぐらいの自然石に南無阿彌陀仏と陰刻した堂々たる墓碑群を見かける(勝山平泉寺)。さすが一向一揆の本場だ。札幌では、ラテン十字と「×××××とその家族」と左横書きの墓碑銘が刻まれ、墓前の香烟には「愛」の字が陽刻してあるというのがあった(大倉・盤溪)。トド松林に囲まれたしゃれた墓だった。家族墓といえ、和歌山県で溜池の側にある8家の個人墓地に「俱会一処」と阿彌陀経の言葉が彫りつけてあるのがあった(打田)。衆生も仏も浄土で出会うというのがもとの意だが、一族の人々、死ぬ時はまぢまぢでも、浄土ではまた会えるんだよという風にも理解されている。現世の家族構

成を来世にも期待する人たち。よっぽど心おだやかな家族なのだろう。

◇あとがき

これらは、オリエンテeringのパーマネントコースを歩きながら見たこと、知ったこと、感じたことである。オリエンテeringといつても、四角いテープの囲いを笛の音と共にとび出し、わき目もふらずに走りまわる大会のタイム・トライアルではなく、カメラを下げ、時には交換レンズや三脚を持ち、コースの景観をメモしたり、現地の人から取材したりしながら歩くのである。適度を距離とその地域の中で変化を求めてセットされたパーマネントコースは、現代の農・山村の実態を学ぶのに最適である。オリエンテeringというより、コースを利用した農山村探訪、それが私のオリエンテeringだ。文中の（ ）内は各コースの名称である。ただここにも危険はある。こちらに非がなくとも起る致命的アクシデントは、放し飼いの犬、ハンター、それに高層コースで有名になった狹狭だ。複数で行動すれば安全性は増す。



「破滅の時Ⅱ」

一年 山田雅夫

何かが迫っていた。極寒の嵐のような、誰にも制止できない、恐るべき凶変が身近に迫っていた。

初めてそれを感じた日、僕は学校を休んでいた。季節はずれの力をひいたのだ。僕はどうかやら虚弱体質らしい。

12時近かった。私室で布団にくるまってマンガを読んでいると、耳鳴りがしだした。蜂の羽音だ。蜂はどんどん数を増して、急激に耐え難いまでの轟音と化した。驚いて立ち上がるうとした途端、僕の体はくらくらと傾いて、布団をすり抜け暗黒の中に落下した。声が暗黒の中で響いた。

「再び混沌が現れる。生命の樹は崩れ、天と地から矢が飛び交う。肉は失なわれる。誓いは死ぬだろう……。」声の意味するところは理解できなかった。声は続いた。蛇、万軍の主、サラホック……僕は声のこだまする中で失神した。気がつくくと、布団の中だった。夢だったのだ。

二度目は、それから二週間経った土曜だった。英文法の授業で屋近くでもあり、眠くなってきた。こうなると、もうどうしようもない。僕の席は先生からは死角の位置にある。あっさり、と、睡魔に降参することにした。が、目を閉じることはできなかった。その瞬間、冷気が全身を戦慄させた。喉がぐうと鳴る。身体から血の気がひいた。体中の毛が逆立つのを感じた。僕は見た／恐ろしい光景だ

った。見慣れた教室が破壊され尽くした残骸と化していた。白いコンクリートの壁は崩れ、醜い鉄骨が突き出していた。天井と床には亀裂が入り、傾いた掲示板にはピンでとめられていたプリントが、下切ればたばとはためいていた。その中で、化物が黙々と授業を受けていた。皮膚が溶け、骨格さえも定かならざる悪魔。友人がクラスメイトが占めるべき位置に、そいつらは存在し、炭化した教科書を開いていた。寝てる奴もいた。超現象。何というおぞましい光景か！僕は怪物化した世界にいる！その認識は遂に僕の喉から狂気絶叫を絞り出した。化物どもの首がいつせいにこちらを振り向いた。

精神科の医者が言うには、ノイローゼの一種らしかった。勉強のしすぎだろうと言われたが、そういう兆候はない。不思議だった。

僕は私鉄を利用して帰宅する。定期を自動改札口に入れるとガシヤッという小気味良い音がしてゲートが左右に開く。ホームに上がった時だった。あの幻覚が三たび襲ったのだ。

プラットフォームは地上十数メートルの所にある。見慣れた町並が崩れ壊滅し、廃墟と化していた。ビルも道も商店街も、半分融解した瓦礫に置き変えられていた。この世の終わりのパノラマだった。気味の悪い真紅の空にはどす黒いキノコ雲が巨大な全身を見せていた。僕のひざがガクンと音をたてて崩れた。立っていられたなかった。僕はこの光景を既に知っていた。日本人の全てが知っていることだった。

その光景とは、被爆直後のヒロシマだった。今や僕は幻覚などではないことを悟った。

世界の終末はボタン一つで決定する。大国の地下から、さらに衛星軌道を周回する人工核衛星から、そして超音速核爆撃機から、あつと言ふ間に、敵国を焼いてしまうのだ。敵国だけではない。ミサイルの照準は全ての国々に向けられている。六十万円あれば原爆を作れる現代だ。それこそ、地球を粉々にできる爆弾だってあるかもしれない。

一瞬にして始まり終わる世界大戦。それが第三次世界大戦だ。第三の大戦は起りえないというのは気のいい迷信にすぎない。人間は何処か滅茶苦茶に狂っているところがあるのだ。どんなおとなしい人間でも、兇悪に、残忍になるところがある。理性が、愛が消し飛ば瞬間がある。およそ人間性など頼りないものではない。地球という生命、それ自体が死に類していた。一般市民が、何も知らずにあくせく働いているうちに、事はとり返しがつかなくなっていた。何もかもが破滅していくのだ。この世そのものが消滅していくのだ。もうだめだ。僕には予知能力があったのだから。だがそれだけのことだ。明日はない。もう二度と来ないのだ。

遠く離れたところで、スイッチが押されたような気がした。

#### ◎「おくればせ」の感謝の辞

今回は校長先生をはじめ例年より多くの先生方から、文字通り多忙な師走の頃に、原稿をお寄せいただきました。また一般募集も応募が多く、掲載できたのが一部だったのは残念です。この場を借りて、皆さんのご協力を感謝いたします。追記――一般募集は〇氏（無職。17才）の受け持ちですので、名文を駄文にされたなどの抗議の持ち主はそちらへどうぞ。

## ◆◆編集後記◆◆

スプリングも今年で十七年目を迎えた。十七という数字にピンときた人は私と同じ連想をしたのだろうか。今の二年生が生まれたのと時を同じくして、スプリング創刊号は発行されたのである。それと今年が大手前創立九十周年というのも何かの縁というものだ。スプリングの歴史をさかのぼってみた。

まずは創刊号に目を通すことが近道だ、と思ったのだが、これがない。どこにもなかった。広辞林からスクリーンに至るまで並んでいる図書館にさえないのだ。あきらめかけていたところ、浜田先生と清水先生に聞けば何か手がかりがあるかもしれない、という情報を耳にはさんだ。(テレビの刑事ものみたいになってきた。)岡先生のはからいで定時制の宮崎先生という方に連絡をとってもらった。宮崎先生は昭和三十四、五年当時は全日制自治会の顧問をしておられたからである。この取材は効果絶大で、いろいろと意外な事情がわかった。その一、三十四年は第一回自治会祭の開かれた年でもあった。大阪城で仮装行

列などが行なわれたそうだが、とにかく自治会が活発だったようだ。その二、なぜスプリングが創られたか。それまで自治会の機関誌がなかったこともそうだが、文芸部の機関誌「大手前文芸」に対抗する気持ちもあったそう。だから内容は評論・文芸だったらしい。次にスプリングの過渡期について。ここではカンを働かせて第十号を調べてみた。十年記念「スプリングってなあに」と目次にある。誰でも考えることは同じである。さて、この記事やその他の資料によると、スプリングはしだいに機関誌から新入生へのパンフレットのような内容に変化していった。第八号にはクラス・クラブ・行事・先生の四つの紹介が揃い、自治会役員たちがしんどそうにマス目を自分の文章で埋めている様子まで十

のお金を徴集しなかったことも特筆に値する。というわけで、編集している間はそんなに意識しなかったのだが、私達はスプリングを自治会を真中にすえた本来の形に押し戻したようだ。来年スプリング制作にあたる人たちは(まだ決まってもいない相手に言うのも変なものだが)今よりもっと一般参加の活発なスプリングを作ってほしい。

大号とそう変わらない。少し毛色の変わっているのは十号あたりである。やはり大学、高校紛争の影響が見られるのだ。自治会が躍動している。そして元のもくあみ、平和の時代、パンフレットの時代がやってきた。

編集委員というものは後悔するためになるようなもので、とにかくいそがしい。しかし完成したスプリングを手渡されて、一番大事そうにその目次をながめるのは、おそらく編集委員だろう。

昭和五十一年十二月

編集委員 渡辺 伸明

最後に編集委員の氏名を……

松 前 利 幸 岡 部 一 利

足 立 弥 智 代 松 葉 正 剛

中 川 淳 司 青 柳 登

元 林 由 里 本 間 佐 江 子